

五頭山と遭難事故

ゴールデンウィーク明け、「新潟県の五頭連山で遭難」の報にびっくりさせられた。「五頭山」と聞かされて、その山がどこにあって、どんな山なのか即答できる山好きは、地元の方たちを除けば決して多くはないと思う。かなりマイナーな山だ。30年くらい前、『新ハイキング』誌で、「五頭山～松平山」のガイド記事に出会った。面白そうな山だなと感じるものがあって、「山の遠足」企画に取り上げ、参加者を募集し、早速歩いてみた。5月下旬のことだったと記憶する。残雪にご用心というガイド記事のアドバイスに従って、参加者には軽アイゼンを用意してもらい、自分は念のため40mのメインロープを携行した。

五頭山の麓には、五頭温泉郷と呼ばれる村杉、今板、出湯と温泉があるのも魅力、ぼくのご最良は出湯温泉だ。入口には「五頭登山口」と彫られた石柱があった。今も健在なのだろうか。案内に従ってやまびこ通りに出、その道を辿ると砂郷沢橋。ここから沢沿いの林道に入ると、どん詰まりから山道が始まる。気分よく登っていくと烏帽子岩を過ぎ、急登を頑張ると五ノ峰に立つ。その先に四ノ峰、三ノ峰、二ノ峰、一ノ峰と続く。一ノ峰は五頭龍神が祀られていて眺望もよく、気分のいい頂き。五頭山三角点はこの先、主稜線上にある。

三角点から松平山にむかう。尾根の背を通っているときは問題ないが、コースが山腹をまくようになって沢の源頭をトラバースするとになると、そこに雪渓が残っていた。傾斜がけっこう急で、スリップしたら谷底まで滑落する。ぼくは安全を期し、ロープをフィックスした。スリップしてもフィックスロープにぶらさがるだけ、恐怖はない。恐怖がないとへっぴり腰にならず、斜面にしっかり立って足を運べるからスリップの心配がない。参加者全員余裕でトラバース。松平山を超え、出湯温泉に下山。

山の雰囲気魅せられて、五頭山にせっせと通うようになったが、いつしか足が遠くなり、忘れかけていたところに「遭難」の報。ぼくの頭に瞬時に浮かんだのは、主稜線上の沢の源頭に残る雪渓のトラバース。マスコミ報道にみる限り、軽アイゼンやロープを携行しているとは思えない。スリップしてコースからはずれれば、大事に至ることは必定だ。残念ながら、行方不明になっていた親子のご遺体は5月29日、松平山山頂から南西約1.7km、標高約580mのコクラ沢の斜面で発見された。

「低い山にも潜む危険」とは、山をよく知る人が必ず指摘すること。目の前の山がマッターホルンみたいだったら、山慣れない人がめざすようなことはない。しかし、我が国の近郊の低山は、緑豊かでおやかで、初心者でも容易に登れそうな山容をしている。多くの登山初心者がスニーカーやGパンなど身軽な恰好で入り込むが、豊かな緑に隠されて急な雪渓があり、岩場があり、脆いガレ場があったりする。麓からは見えない危険を認識して、登山して頂きたい。